D01034100A

TASCAM
TEAC Professional Division

GT-R1

Portable Guitar/Bass Recorder

目次

クイックスタートガイド

安全にお使いいただくために

この取扱説明書への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の意味

⚠警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
	⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警告

万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してお買い上げの販売店またはティアック修理センターに修理をご依頼ください。

万一、機器の内部に異物や水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。

この機器の上に小さな金属物を置かないでください。中に入った場合に火災・感電の原因となります。

この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

船舶などの直流（DC電源）には接続しないでください。 火災の原因になります。

航空機の運航の安全に支障を及ぼすおそれがあるため、離着陸時の使用は航空法令により制限されていますので、離着陸時は本機の電源をお切りください。

⚠注意

オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないように注意してください。 耳を刺激する様な大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪影響を与えることがあります。

次のような場所に置かないでください。火災、感電やけがの原因となることがあります。

・調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所
・湿気やほこりの多い場所
・ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所

ACアダプター使用時に移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。又、お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

この機器には、指定のACアダプターをご使用ください。それ以外の物を使用すると故障、火災、感電の原因となります。

⚠警告（充電池に関する警告）

本製品はリチウムイオン電池を使用しています。発熱、発火、液漏れ等を避けるため、以下の注意事項を必ず守ってください。

●指定以外のACアダプターとUSBケーブルを使用しないでください。
家庭用AC電源で使用する時や、充電を行う時は必ず指定のACアダプターとUSBケーブルを使用してください。指定以外の物を使用すると過熱により、けが・やけど・火災・汚損や電池の破裂、液漏れの原因になります。

火の中に入れたり、火のそばや炎天下などで充電したり、放置したりしないでください。

●分解しないでください。
感電の原因になります。充電式電池の交換・点検・修理は、お買い上げの販売店またはティアック修理センターにご依頼ください。ただし廃棄時には取扱説明書記載の手順に従って内蔵の電池を取り外してリサイクルにご協力ください。

●充電式電池の液が漏れたときは素手で液をさわらないでください。
液漏れが発生した時にはティアック修理センターにご相談ください。
液が目に入った時には失明の恐れがありますので、目をこすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師にご相談ください。
液が体や衣服に付いた時は皮膚の怪我・やけどの原因になるのできれいな水で洗い流したあと、ただちに医師にご相談ください。

第1章　はじめに

本機はSDカードを使ったギタリスト／ベーシスト向けのポータブルレコーダーです。内蔵マイクを使った録音のほかに、ギター／ベース専用入力端子を使ったギターまたはベースを直接録音、外部オーディオ機器（CDプレーヤーなど）のライン録音が可能です。録音オーディオフォーマットはMP3（32kbps～320kbps、44.1kHz／48kHz）、WAV（44.1／48kHz、16／24ビット）から選択可能です。さらに本機では、オーディオファイルを再生しながら入力信号をミックスして録音することができます（オーバーダビング機能）。
また本機は、ギター／ベースの練習に役立つ再生コントロール機能（音程を変えないスロー再生、ギター／ベースのパートキャンセル機能など）やリズムマシン機能を装備しています。なお入力信号には内蔵エフェクターを掛けることができます。練習に使う曲は本機の入力端子を使って録音できるほかに、USB接続したパソコン上に保存されている曲を本機に転送（コピー）することができます。

取扱説明書について

本書は、GT-R1を購入後すぐに使用していただくための基本的な操作のみを説明しています。GT-R1の詳しい取扱説明書は本機に同梱、またはSDカード内の電子ファイルとして収録されています。

SDカード内の 取扱説明書を見るには

付属のSDカードを本機にセットし、付属のUSBケーブルを使って、本機をパソコンに接続します（接続方法については「パソコンとUSB接続する」（11ページ）をご覧ください）。
GT-R1フォルダ内のMANUALフォルダに取扱説明書ファイルがあります。なおこのファイルを開くには、パソコンにAdobeReaderがインストールされている必要があります。AdobeReader はインターネットから無償でダウンロードできます。

ご注意

取扱説明書のデータは他のメディア（パソコンのハードディスク、CD-R等）にバックアップすることをお勧めします。

■ 取扱説明書を消してしまった時には

取扱説明書を削除してしまった場合は、弊社ウェブサイト（http://www.tascam.jp/)からダウンロードすることができます。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。
化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコール等で拭かないでください。表面を痛める原因となります。

アフターサービス

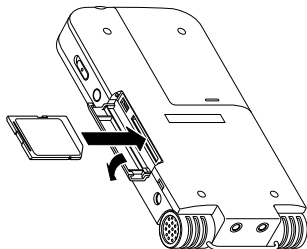
- この製品には保証書を別途添付しております。保証書は所定事項を記入してお渡ししておりますので、大切に保管してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年です。保証期間中は記載内容によりティアック修理センターが修理いたします。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センターなどにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客さまのご要望により有償修理いたします。
- 万一、故障が発生し修理を依頼される場合は、次の事項を確認の上、ティアック修理センターまでご連絡ください。
    - 型名、型番（TASCAM GT-R1）
    - 製造番号（Serial No.）
    - 故障の症状（できるだけ詳しく）
    - お買い上げ年月日
    - お買い上げ販売店名

SDカードをセットする

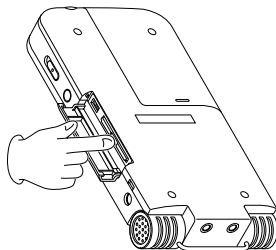
本機ではSDカードを使って記録や再生を行いますので、ご使用前にカードをセットする必要があります。

メ モ

本機をお買い上げ時には1GBのSDカードがセットされています。このSDカードをそのまま使って録音／再生を行う場合は、改めてセットし直す必要はありません。

本機の左サイドパネルにSDカードスロットとUSBコネクタの蓋があります。

蓋を矢印の方向に押し下げてから開きます。
SDカードスロットにSDカードを差し込み、カチッと手応えがあるまで押します。

SDカードを取り外すには：

差し込まれているSDカードを押します。

ご注意

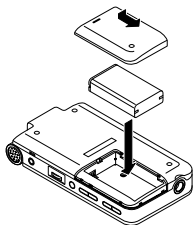
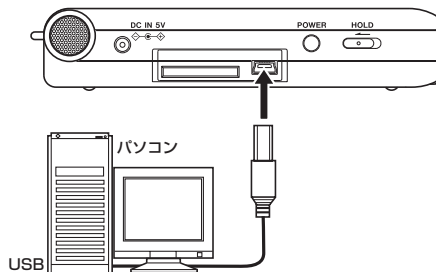
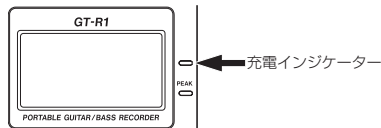
録音中や再生中、およびパソコンとUSB接続中は、SDカードを取り外さないでください。

電源を準備する

本機は専用リチウムイオンバッテリー（BP-L2、付属および別売）または別売のACアダプター（PS-P520）で駆動することができます。ご使用の際はあらかじめバッテリーを充電しておくか、またはACアダプターを接続します。

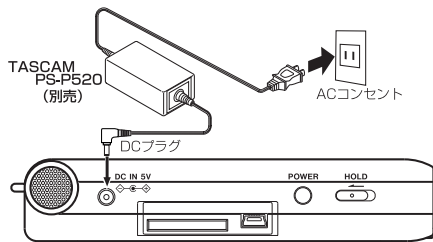
専用バッテリーを使う

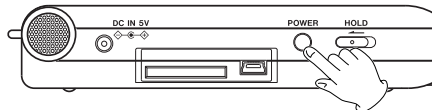
（BP-L2、付属または別売の）専用バッテリーは、お買い上げ時に十分に充電されていませんので、ご使用前にあらかじめ充電する必要があります。充電は、本機とパソコンをUSB接続して行います。

1. 本機の裏面にあるバッテリーケースの蓋をスライドして取り外し、付属の専用バッテリーをセットします。

2. 本機の左サイドパネルの蓋を開き、付属のUSBケーブルを使って、本機のUSBポートとパソコンをUSB接続します。

USB接続中、本機の専用電池の充電が始まり、トップパネル右上部の充電インジケーターがオレンジ色に点灯します。充電が完了すると消灯します。

メモ

- 本機の電源を入れなくてもUSB接続中は充電が行われます。
- 専用電池は別売されていますので、必要に応じて予備電池を用意することができます。
- 別売のACアダプターを接続すると、内蔵電池が充電されます。この場合も充電中は充電インジケーターが点灯します。なお本機の電源を入れなくても、ACアダプターを接続中は充電が行われます。

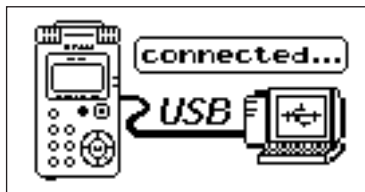
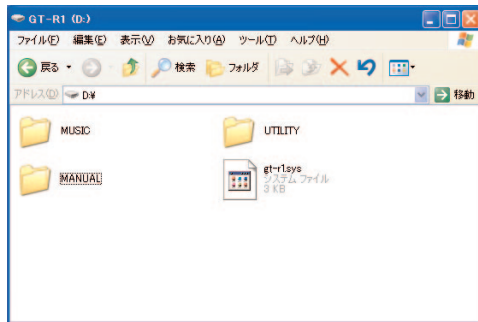
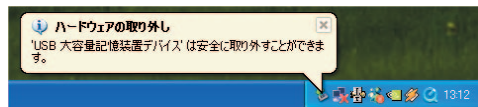
別売のACアダプターを使う

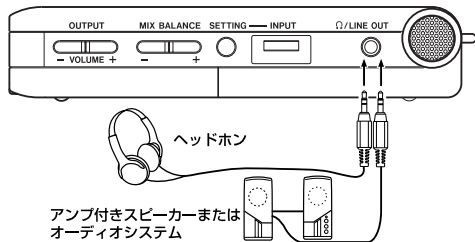
別売のACアダプター（PS-P520）を**DC IN 5V**に接続します。

電源を入れる／切る

電源を入れるには、ディスプレイに **"TASCAM GT-R1"** と表示されるまで、左サイドパネルの**POWER**キーを押し続けます。

本機が起動すると、ホーム画面が表示されます。

電源を切るには、ディスプレイに **"PORTABLE GUITAR/BASS RECORDER"** と表示されるまで、**POWER**キーを押し続けます。

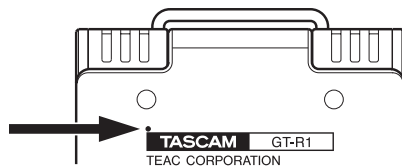
パソコンとUSB接続する

付属のUSBケーブルを使ってパソコンとUSB接続することによって、本機のバッテリーの充電、オーディオファイルの転送（コピー）などを行うことができます。必要に応じて接続してください。
本機およびパソコンが起動しているときにUSBケーブルを接続をすると（あるいはUSBケーブル接続後に本機とパソコンを起動すると）、以下の画面が本機ディスプレイに表示されます。

またパソコンには、本機にセットされているSDカードが **"GT-R1"** という名の外部ドライブとして表示されます。
"GT-R1" ドライブの中には、MUSICフォルダ、UTILITYフォルダおよび取扱説明書のPDFデータを収録したMANUALフォルダがあります。

USB接続を終了するには、パソコン側で **"GT-R1"** の接続を解除してから、USBケーブルを抜きます。
パソコン側での接続解除方法については、GT-R1取扱説明書またはパソコンの取扱説明書をご覧ください。

モニターを準備する

Ω/LINE OUT端子にヘッドホンまたはモニターシステム（アンプ内蔵スピーカー、オーディオシステムなど）を接続します。

ご注意

マイクを使った録音を行うときは、ヘッドホンを使ってモニターしてください。スピーカーを使ってモニターすると、スピーカーの出力音が入力されて、正常な音で録音できなかったり、ハウリング（フィードバック）を起こす可能性があります。

本機をリセットするには

本機のボトムパネルにリセット用ホールがあります。

本機の動作がおかしくなったとき、クリップの先端など細長い棒などをこの穴に差し込んで、内部にあるボタンを押します。電源がオフになり、本機のシステムがリセットされます。

ご注意

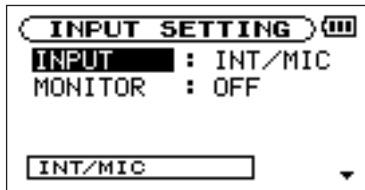
正常に動作しているときはリセットボタンを押さないでください。

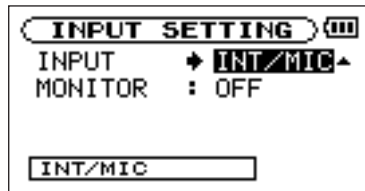
内蔵マイクを使って録音する

内蔵のステレオマイクを使って、通常のステレオ録音を行ってみましょう。
以下の操作は、本機にSDカードをセットし、本機を起動し、Ω/LINE OUT端子にヘッドホンを接続していることを前提にしています。

メ モ

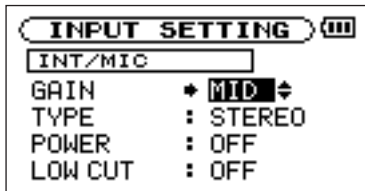
本機を最初に使うときは **"INT/MIC"** に設定されていますので、手順1.〜3.は必要ありません。

1. 右サイドパネルのSETTINGキーを押して、**INPUT SETTING**画面を表示します。

"INPUT" が反転しています。

2. ▶▶|キーを押します。

この状態で入力を選択できます。

3. ホイールを使って **"INT/MIC"** を選択します。
内蔵マイクが入力ソースになります（リアパネルのMIC IN端子に何も接続しない場合）。
他のソース（ギター／ベース、外部マイクあるいはライン入力）を録音する場合については、「内蔵マイク以外のソースを録音する」（16ページ）をご覧ください。

4. |◀◀キーを押します。

5. ホイールを使って**GAIN**項目を反転し ►►I キーを押します。

6. ホイールを使って**GAIN**を設定します。

ヒント

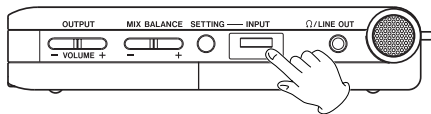
工場出荷時は**GAIN**は**MID**に設定されています。
バンド演奏など大きい音量を録音するときは**LOW**に会議など小さい音量を録音するときは**HIGH**に設定してください。

7. STOP/HOMEキーを押して、ディスプレイをホーム画面に戻します。

8. REC/PAUSEキーを押して録音待機にします。
キーが赤く点滅し、ディスプレイが録音画面になります。

録音待機にすると、入力信号をヘッドホンでモニターすることができます。

9. 右サイドパネルのINPUTボリュームを使って、マイクの入力レベルを調節します。

ご注意

- PEAKインジケーターは入力信号の過大入力を監視します。PEAKインジケーターが点灯する場合はINPUTボリュームを使ってレベルを下げてください。
- L/Rメータは録音レベルを監視します。一番右のドットが点灯する場合はINPUTボリュームを使って入力レベルを下げるか、エフェクターを使用している場合は**EFFECT**画面内の出力レベル（**LVL**）を下げてください。

ヒント

INPUTボリュームの調節だけでなく、マイクと音源との距離や、マイクの向きを調節してみてください。距離や向きによって音質が変わります。（ → 取扱説明書「第7章　録音する」の「内蔵マイクの角度を調整する」）

10. 必要に応じて、OUTPUT VOLUME（+、−）キーを使ってモニター音量を調節します。
11. 再度、REC/PAUSEキーを押して録音を始めます。キーが赤く点灯します。
12. 録音を止めるにはSTOP/HOMEキーを押します。
録音を止めると、録音データが新しいオーディオファイルとして保存され、ディスプレイがホーム画面に戻ります。
再生位置が録音したオーディオファイルの先頭に戻ります。

メモ

- 録音を一時停止するには、REC/PAUSEキーを押します。
- 出荷時の設定では、16ビットのWAV形式で録音されますが、24ビットのWAV形式またはmp3形式で録音することもできます。MENU画面の**REC SETTING**項目で設定できます。（ → 取扱説明書「第7章　録音する」の「ファイル形式／サンプリング周波数を選択する」）
- GT-R1で録音したオーディオファイルには、録音した順番でGTの後に6桁の通し番号が付いたファイル名が自動的に作成されます。ファイル名の後ろにはファイル形式に応じて拡張子（**.wav**または**.mp3**）が付加されます。例えば最初に録音するファイルがWAV形式の場合、ファイル名は **"GT000000.wav"** になります。

内蔵マイク以外のソースを録音する

内蔵マイクを使わずに、ギター／ベースの音を録音したり、ミキサーやオーディオ機器などの出力信号を録音することもできます。

内蔵マイク以外の信号を録音するには、音源を本機の適切な入力端子に接続し、**INPUT SETTING**画面の**INPUT**項目を音源に応じた設定にします（上記の「内蔵マイクを使って録音する」の手順**1.**〜**4.**参照）。

それ以後の操作は、上記の「内蔵マイクを使って録音する」の手順**5.**以下と同じです。

●ギター／ベースの音を録音する場合

1. フロントパネルのGUITAR IN端子（モノラル標準ホンジャック）にギターまたはベースを接続します。
2. **INPUT SETTING**画面の**INPUT**項目を **"GUITAR"** に設定します。

メモ

GUITAR IN端子に入力された信号はL、R両チャンネルに録音されます。

ご注意

アクティブタイプ（電池を内蔵した）のギター／ベースを接続して音が歪む場合は、ギター／ベース側のボリュームを絞ってください。

●ミニプラグのマイクを録音する場合

1. リアパネルのMIC IN端子（ステレオミニジャック）にマイクを接続します。
2. **INPUT SETTING**画面の**INPUT**項目を **"INT/MIC"**に設定します。
3. ⏮キーを押して**INPUT**項目を反転したあと、ホイールを右に回して**INT/MIC**の設定サブメニューを表示し、ステレオ／モノの設定、プラグインパワーのオン／オフ設定などを行います。詳しくは取扱説明書をご覧ください。

●外部オーディオ機器を録音する場合

1. リアパネルのLINE IN端子（ステレオミニジャック）に外部オーディオ機器の出力端子を接続します。
2. **INPUT SETTING**画面の**INPUT**項目を **"LINE"** に設定します。

メモ

LINE IN端子からの入力信号の入力レベルは固定です。INPUTボリュームを使ってレベルをコントロールすることができません。レベル調節は外部機器側で行ってください。

ファイルを削除する

録音したファイルが気に入らない場合など、ブラウズ（BROWSE）画面上で不要なファイルを削除することができます。

1. MENUキーを押して**MENU**画面を表示します。

2. ホイールを使って **"BROWSE"** を反転し、►/❚❚キーを押します。
BROWSE画面が表示されます。

3. ホイールを使って削除したいファイルを反転し、►/❚❚キーを押します。
以下のポップアップが表示されます。

4. ホイールを使って **"DELETE"** を反転し、►/❚❚キーを押します。
   以下の確認画面が表示されます。

5. ►/❚❚キーを押してファイルを削除します。
   削除を中止する場合は、**STOP/HOME**キーを押します。

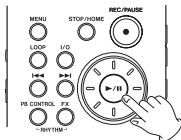
メモ

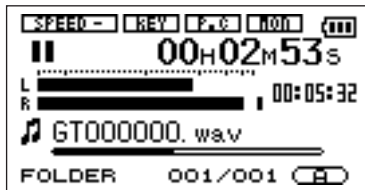
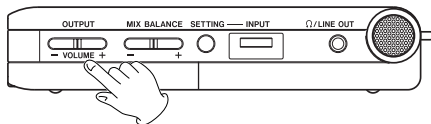
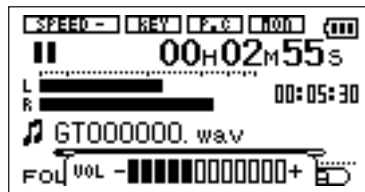
本機では、録音ファイルをカテゴリー別のフォルダに分類するなど、フォルダ構造で管理することができます。その場合のフォルダの作成方法や画面内でのナビゲーション、削除以外のファイル操作などについては、取扱説明書の「第10章　ブラウズ（BROWSE）画面」をご覧ください。

録音したファイルを再生してみましょう。

メモ

録音を終了した後、再生位置が録音したファイルの先頭に自動的に戻っています。

1. ►/❚❚キーを押して再生を開始します。

ヒント

ファイル内の再生位置が、ホーム画面の再生位置表示バーに表示されます。

2. OUTPUT VOLUME（+、−）キーを使ってモニターボリュームを調節します。

調節中（キー操作中）、ボリューム位置がディスプレイの下部にバー表示されます。

3. 再生を停止するには、►/❚❚キー（またはSTOP/HOMEキー）を押します。
現在の位置で停止します。
ファイルの頭に戻すには、⏮キーを押します。

メモ

- 複数のファイルを録音した場合、⏮／⏭キーを使ってファイルを選択することができます。
- ⏮／⏭キーを押したままにすると、それぞれ早戻し／早送りサーチができます。
- ホイールを使って再生位置を移動することができます。

前述の「オーバーダビングをする」、あるいは後述する「曲に合わせてギター／ベースを弾く」、「再生コントロール機能を使う」での再生素材として、CDの曲を本機に取り込んでみましょう。
いったんCDからパソコンに取り込んで本機に転送します。

メ モ

本機の**LINE IN**端子経由で、CDの曲を直接録音することもできます。

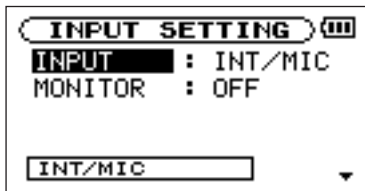
以下の操作は、パソコンと本機の電源がオンになっていることを前提としています。

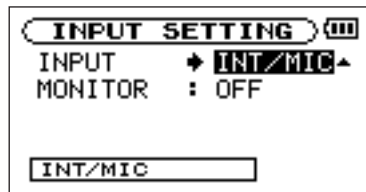
1. パソコンのソフトウェアアプリケーション（iTunesなど）を使って、CDの曲をMP3またはWAV形式でパソコンに取り込みます。
   具体的な操作方法などについては、パソコンあるいはアプリケーションの取扱説明書／ヘルプをご覧ください。
2. パソコンと本機をUSB接続します。（→ 11ページ「パソコンとUSB接続する」）
3. パソコン上の **"GT-R1"** ドライブをクリックして開きます。
   UTILITYフォルダ、MUSICフォルダが表示されます。
4. パソコンに取り込んだ曲のファイルをMUSICフォルダにドラッグ＆ドロップします。
   ファイルがコピーされます。
5. コピーを終えたら、まず最初にパソコンから本機を正しい手順で切り離した後、USBケーブルを外します。
   本機の画面がホーム画面に戻ります。

第6章　曲に合わせてギター／ベースを弾く

録音したファイルやパソコンから取り込んだ曲に合わせてギター／ベースを演奏することができます。

ギター／ベースを接続する

1. フロントパネルのGUITAR IN端子（モノラル標準ホンジャック）にギターまたはベースを接続します。
2. 右サイドパネルのSETTIGキーを押して、**INPUT SETTING**画面を表示します。

"INPUT" が反転しています。

3. ►►Iキーを押します。

この状態で入力を選択できます。

4. ホイールを使って **"GUITAR"** を選択します。
5. I◄◄ キーを押します。
6. ホイールを使って**MONITOR**項目を反転し、 ►►Iキーを押します。
7. ホイールを使って**ON**項目を選択します。
   常に入力信号が出力されるようになります。
8. STOP/HOMEキーを押して、ディスプレイをホーム画面に戻します。

9. INPUTボリュームで入力レベルを調整します。

ご注意

アクティブタイプ（電池を内蔵した）のギター／ベースを接続して音が歪む場合は、ギター／ベース側のボリュームを絞って下さい。

曲を再生しながら演奏する

1. ⏮／⏭キーを使って、再生するオーディオファイルを選択します。

ヒント

MENU画面から **"BROWSE"** の画面を呼び出して操作することにより、ダイレクトに選曲することができます。

2. ►/❚❚キーを押して曲を再生します。
曲を再生しながらギター／ベースを演奏するとミックスされた信号が Ω /LINE OUT端子から出力されます。MIX BALANCEキーを使って、再生音と入力音のバランスを調整できます。

エフェクターを使用する

本機にはギター／ベース用のエフェクターが内蔵されています。以下の手順で、ギター／ベースにエフェクトを掛けることができます。

1. FXキーを長押しして、**EFFECT**画面を表示します。

2. ホイールを使って **"SOURCE"** を反転し、⏭キーを押します。

3. ホイールを使って **"INPUT"** を選択します。
ギター／ベースにエフェクトが掛かるようになります。

メ モ

"INPUT" の代わりに **"PLAY"** を選択すると、再生音にエフェクトが掛かります。

4. ⏮キーを押して**SOURCE**項目を反転したあと、ホイールを使って**BANK**項目を選択し⏭キーを押します。
   ホイールを回すと**BANK**表示が、**A,B,C,D,E**の順に変わります。
5. ⏮キーを押して**BANK**項目を反転したあと、ホイールを右に回して**PRESET**項目を選択し⏭キーを押します。
6. ホイールを使って希望のプリセットエフェクトを選択し⏮キーを押します。
7. ホイールを使って **"LVL"** を反転し、⏭キーを押します。
8. ホイールを使って**LVL**（エフェクト出力レベル）を調整し⏮キーを押します。
9. STOP/HOMEキーを押して、ホーム画面に戻します。
10. FXキーを押して、ディスプレイ右下の**BANK**名のアイコンを反転させせます。

ヒント

- いつでもFXキーを押すことによって、エフェクターのオン／オフを切り換えることができます。
- 選択したプリセットエフェクトは更に各エフェクトのパラメータを調整することもできます。

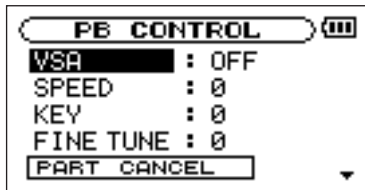
メ モ

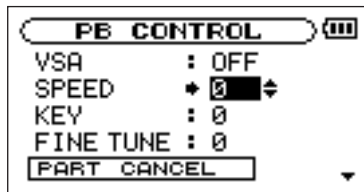
プリセットエフェクトの種類と内容については、取扱説明書の「第19章　エフェクタプリセット一覧」をご覧ください。

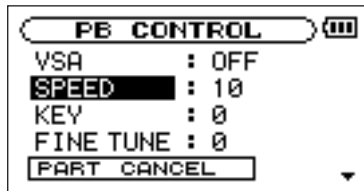
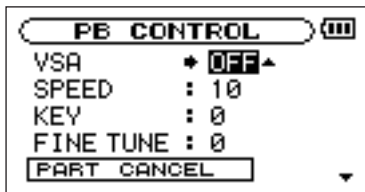
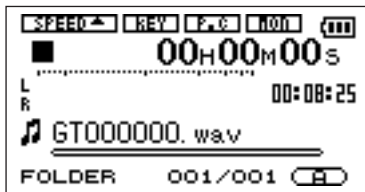
本機は、ギター／ベースの練習時に便利な再生コントロール機能を装備しています。この機能を使って、CDから取り込んだ曲や本機で録音した素材を再生するときのスピードやキーを変えることができます。

再生のスピードを変える

スピードを変えて再生することができます。フレーズをコピーするときなどに便利です。またVSA機能をオンにすると、スピードを変えたときに音程が変わりません。以下の手順例では、音程を変えずにスピードのみを変える設定を行います。

1. ホーム画面表示中、PB CONTROLキーを長押しして、**PB CONTROL**画面を表示します。

2. ホイールを使って **"SPEED"** を反転し、►►I キーを押します。

SPEEDの現在の設定値が反転します。

3. ホイールを使ってスピード値を設定します。
表示される数字の単位は%です。**−50%**〜**＋16%**の範囲で設定できます。

4. I◄◄ キーを押します。
"SPEED" が反転します。

5. ホイールを使って **"VSA"** を反転し、►►Iキーを押します。
VSAの現在の設定が反転します。

6. ホイールを使って **"ON"** を選択します。
7. STOP/HOMEキーを押して、ディスプレイをホーム画面に戻します。

8. PB CONTROLキーを押します。
ディスプレイ上部の**SPEED**アイコンが反転表示になり、スピードコントロール機能（VSAおよびSPEED機能）が動作中であることを示しています。

ヒント

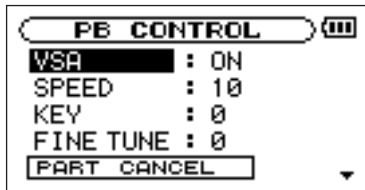
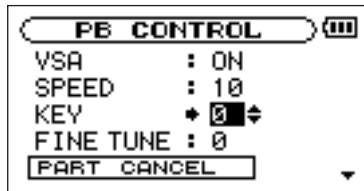
ホーム画面表示中はいつでもPB CONTROLキーを短く押すことによって、スピードコントロール機能のオン／オフを切り換えることができます。

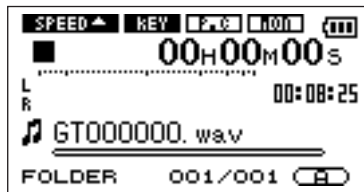
メモ

SPEEDアイコンには、スピードの設定値に応じて、**"▲"**、**"▼"** または **"–"** が表示されます。スピード値がプラスのときは **"▲"**、マイナスのときは **"▼"**、0のときは **"–"** が表示されます。

再生のキーを変える

キーを変えて再生することができます。曲に合わせてギター／ベースを練習するときなどに便利な機能です。

1. ホーム画面表示中、PB CONTROLキーを長押しして、**PB CONTROL**画面を表示します。

2. ホイールを使って **"KEY"** を反転し、►►Iキーを押します。
   KEYの現在の設定値が反転します。

3. ホイールを使ってキーを半音単位で上下します。
   上下に6半音の範囲で設定できます。

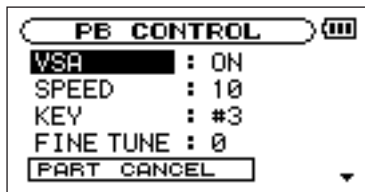
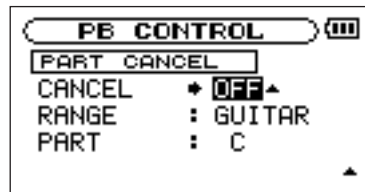
4. STOP/HOMEキーを押して、ディスプレイをホーム画面に戻します。

ディスプレイ上部の**KEY**アイコンが反転し、キーコントロール機能が動作中であることを示しています。

ギター／ベースの音を低減する

多くの市販の音源（CDなど）の場合、ギター／ベースの音を低減することができます（パートキャンセル機能）。

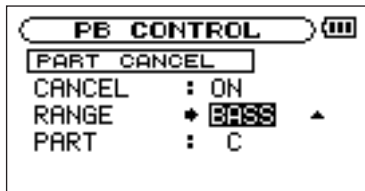
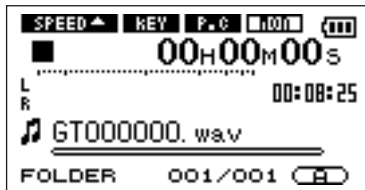
メ モ

キャンセル効果は音源によって異なります。

1. ホーム画面表示中、PB CONTROLキーを長押しして、**PB CONTROL**画面を表示します。

2. ホイールを使って **"PART CANCEL"** の**CANCEL**項目を反転し、►►Iキーを押します。

3. ホイールを使って **"ON"** を選択します。

ベースの音を低減したい場合は、以下の**4.**、**5.**項目の設定を行ってください。
ギターの音を低減したい場合は、**4.**、**5.**項目の設定を行う必要はありません。

4. I◄◄キーを押して**CANCEL**項目を反転したあとホイールを使って**RANGE**項目を選択し►►Iキーを押します。

5. ホイールを使って **"BASS"** を選択します。

6. STOP/HOMEキーを押して、ディスプレイをホーム画面に戻します。

ディスプレイ上部の**P.C**アイコンが反転し、パートキャンセル機能が動作中であることを示しています。

ヒント

- **RANGE**項目と**PART**項目で、それぞれ低減する音の音域と定位を設定することができます。これらの設定を変えることで、低減効果が増す場合があります。詳しくは、取扱説明書「第11章　特殊な再生（再生コントロール機能）」の「ギター／ベースの音を低減する」をご覧ください。
- ギター／ベースの練習時に、再生コントロールを行いながらGUITAR IN端子などからの入力をミックスしたい場合は、「第6章　曲に合わせてギター／ベースを弾く」の「ギター／ベースを接続する」（22ページ）で述べた手順に従って、ギターまたはベースの接続および本機の設定を行ってください。

第8章　繰り返し再生する

ファイル内の希望の区間を繰り返し再生（ループ再生）することができます。

1. ►/❚❚キーを押して再生を始めます。
2. 繰り返し再生したい区間の始点で**I/O**キーを押します。
3. 繰り返し再生したい区間の終点で**I/O**キーを押します。
   繰り返し再生が始まります。

- 繰り返し再生を中止するには、**LOOP**キーまたは**I/O**キーを押します。
  LOOPキーを押した場合、繰り返し区間の設定が残り、再び**LOOP**キーを押すと、また繰り返し再生が始まります。
  I/Oキーを押した場合、繰り返し区間の設定がクリアされます。

メ モ

再生エリア内の繰り返し再生、1曲の繰り返し再生を行うこともできます。（ → 取扱説明書「第12章　ループ再生/リピート再生/1曲再生」）

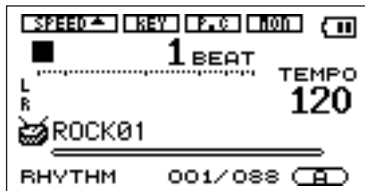
第9章　リズムマシンに合わせてギター／ベースを弾く

内蔵のリズムマシンに合わせてギター／ベースを演奏してみましょう。

ギター／ベースを接続する

「第6章　曲に合わせてギター／ベースを弾く」の「ギター／ベースを接続する」（22ページ）で述べた手順に従って、ギターまたはベースの接続および本機の設定を行います。

リズムマシンを設定する

1. ホーム画面表示中、**PB CONTROL**キーと**FX**キーを同時に押します。
   リズム画面が表示され、本機がリズムモードになります。

メ モ

リズムモードから通常モードのホーム画面に戻すには、再び**PB CONTROL**キーと**FX**キーを同時に押します。

2. **►/II**キーを押します。
   リズムマシンがスタートします。
   ►/IIキーを押すたびにリズムマシンのスタートとストップが切り換わります。
   初めてリズムマシンを使うときは、初期設定のパターンとテンポによるリズムが再生されます。
   リズムを聴きながら、パターンとテンポを設定してみましょう。
3. **I◄◄／►►I**キーを使ってプリセットのパターンを選びます。
4. ホイールを使ってテンポを調節します。

ヒント

リズム設定画面を使って、リズムをスタートする前のカウントインの設定を行うことができます。（→ 取扱説明書「第16章　リズムマシンを使う」の「リズムマシンを設定する」）

リズムマシンに合わせて演奏する

リズムマシンに合わせてギター／ベースを演奏してみましょう。

1. リズム画面が表示されているとき、►/❚❚キーを使ってリズムマシンをスタートします。
   リズムマシンを再生しながらギター／ベースを演奏すると、ミックスされた信号が Ω/**LINE OUT**端子から出力されます。

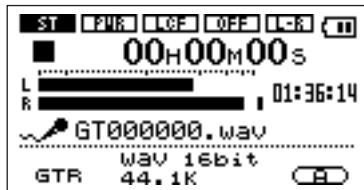
2. **MIX BALANCE**キーを使って、リズムマシンの音とギター／ベースの音のバランスを調節します。

メ モ

リズムマシンまたはギター／ベースにエフェクトを掛けることができます。（ → 23ページ「エフェクターを使用する」）

リズムマシンとギター／ベースをミックス録音する

リズムマシンに合わせてギター／ベースを演奏するだけでなく、これらのミックス信号を録音してみましょう。

1. リズム画面が表示されているとき、**REC/PAUSE**キーを押します。
   録音待機状態になり、キーが赤く点滅します。ディスプレイが録音画面に変わります。

2. 再度、REC/PAUSEキーを押します。
リズムマシンがスタートし、同時に録音が始まりますので、リズムマシンに合わせてギター／ベースの演奏を行います。

3. 録音を終えたら**STOP/HOME**キーを押します。
ディスプレイがリズム画面に戻り、オーディオファイルが作成されます。

メモ

リズムモードでは録音した音を再生することができません。下記の操作を行ってリズムモードを終了して通常モードに戻してから、ファイルの再生を行ってください。

4. PB CONTROLキーと**FX**キーを同時に押して、リズムモードを終了します。
通常のモードに戻り、ホーム画面が表示されます。

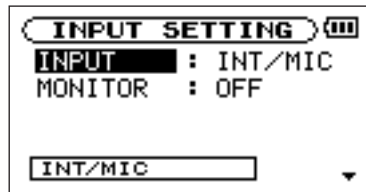
第10章　オーバーダビングをする

オーバーダビングでは、SDカードに保存されているオーディオファイルを再生しながら新しい音をミックスして録音することができます。例えば、音楽に合わせてギター／ベースを演奏し録音することができます。
以下に、すでに保存されているオーディオファイルの先頭からの再生音に合わせて、ギター／ベースをオーバーダビングする手順を説明します。

準備する

フロントパネルの**GUITAR IN**端子（モノラル標準ホンジャック）にギター／ベースを接続した後、以下の手順で入力ソースを**GUITAR IN**端子からの入力に設定し、入力信号を常時モニターできるように設定します。そして入力レベルを調整します。

●入力を設定する

1. 右サイドパネルのSETTINGキーを押して、**INPUT SETTING**画面を表示します。

"INPUT" が反転しています。

2. ►►Iキーを押します。
この状態で入力を選択できます。
3. ホイールを使って **"GUITAR"** を選択します。

オーバーダビングを行うとき、以下の手順で**MONITOR**項目を **"ON"** に設定します。**MONITOR**項目を **"ON"** にすると、常に入力信号がΩ/LINE OUT端子から出力されます。

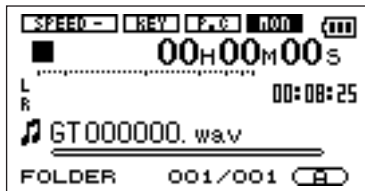
4. I◄◄キーを押します。

5. ホイールを使って**MONITOR**項目を選択し、►►Iキーを押します。

6. ホイールを使って **"ON"** を選択します。

7. STOP/HOMEキーを押して、ディスプレイをホーム画面に戻します。
この状態で入力するギター／ベース信号と再生信号の両方がミックスされてΩ/LINE OUT端子から出力されます。

録音する

1. I◄◄／►►Iキーを使って、再生するオーディオファイルを選択します。

画面上に選択しているファイル名が表示されます。

メ モ

直前に録音したオーディオファイルに音をミックスする場合は、すでに選ばれていますので、上記操作は不要です。

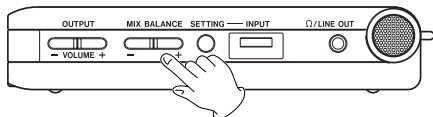
2. ►/IIキーを押して再生を開始しギター／ベースとの音量バランスをチェックします。

メ モ

右サイドパネルのINPUTボリュームを使ってギター／ベースの入力レベルを調節します。PEAKインジケーターが点灯する場合は、入力をレベルを下げてください。
また、L/Rメーターの一番右のドットが点灯する場合は、INPUTボリュームを使って入力レベルを下げるか、エフェクトを使用している場合は、**EFFECT**画面内の出力レベル（**LVL**）を下げてください。

3. 必要に応じて、**MIX BALANCE**キーを使って、再生の音量を調節します。

メ モ

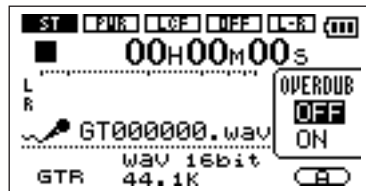
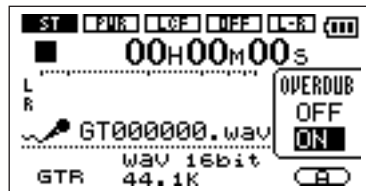
再生中にL/Rメーターの一番右のドットが点灯する場合は、入力レベルを下げるか、**MIX BALANCE**を使って再生レベルを下げてください。

調整中（キー操作中）、再生ボリュームがディスプレイの下部にバー表示されます。

4. ⏮キーを使って、再生オーディオファイルの先頭に戻します。

メ モ

ファイルの途中からの再生音に合わせてオーバーダビングを行うこともできます。その場合は頭に戻す代わりに、希望の位置をサーチしておきます。

5. **REC/PAUSE**キーを押します。

録音待機になり、キーが赤く点滅します。画面にオーバーダビングモードのオン／オフの選択がポップアップ表示されます。

6. ホイールを使って、**"ON"** を選択します（ONを反転）。

7. 再度、**REC/PAUSE**キーを押します。
手順**1.**で選択したファイルが再生され、同時に録音が始まりますので、再生に合わせてギター／ベースの演奏を行います。

8. 録音を終えたら**STOP/HOME**キーを押します。

メ モ

- ミックス信号は新しいファイルに録音されます。再生ファイルが上書きされることはありません。
- オーバーダビングによる録音を繰り返すことによって、疑似的なマルチトラックレコーディングが可能です。

ご注意

上記の手順**3.**で再生音のバランスを下げてオーバーダビングを行った場合、作成したオーディオファイルを再生すると、録音時のモニターに比べて音が小さく聞こえます。この場合は、**MIX BALANCE +**キーを使って再生レベルを最大にしてください。

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム営業技術までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く10:00〜12:00 / 13:00〜17:00です。

タスカム営業技術　〒206-8530　東京都多摩市落合1-47

® **0120-152-854**

携帯電話・PHS・IP電話などからはフリーダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30〜17:00です。

ティアック修理センター　〒190-1232　東京都西多摩郡瑞穂町長岡2-2-8

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。
新電電各社をご利用の場合、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

■ 住所や電話番号は，予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒206-8530
東京都多摩市落合1-47
http://www.tascam.jp/

Printed in China